

# NS-PA40

(NS-F40 + NS-C40 + NS-B40 + NS-SW40)

5.1ch スピーカーパッケージ



## 取扱説明書

保証書別添付

ご使用の前に必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。  
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

## 目次

安全上のご注意.....	ii
同梱品の確認.....	1
フロントスピーカーの組み立て.....	1
スピーカーの設置.....	3
フロント / センター / サラウンドスピーカーの設置.....	3
サブウーファアの設置.....	3
スピーカーを壁に掛ける場合.....	3
接続のしかた.....	4
接続図.....	4
電源コードの接続.....	6
サブウーファアの使いかた.....	6
音量バランスの調節.....	6
困ったときは.....	7
仕様.....	7

## お問い合わせ窓口

### ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

#### ■ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口



0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。  
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～17:00  
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

#### ■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。  
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

### ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

#### ■ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。  
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00  
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

#### FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様  
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、北陸地域にお住まいのお客様  
(06) 6465-0367

#### 修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 9:00～17:45  
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

#### 東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
FAX (03) 5762-2125

#### 西日本サービスセンター

〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82  
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F  
FAX (06) 6465-0374

\*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

## 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

- **保証期間**  
製品に添付されている保証書をご覧ください。
- **保証期間中の修理**  
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**  
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**

<b>技術料</b>	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
<b>部品代</b>	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
<b>出張料</b>	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修用性能部品の最低保有期間**  
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **製品の状態は詳しく**  
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。
- **スピーカーの修理**  
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**  
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

### 永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

#### こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

# 安全上のご注意




ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

## ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



### 警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



### 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



## 警告

### 電源/電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。  
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。  
● 異常なおいや音が出る。 ● 異常に高温になる。  
● 内部に水や異物が混入した。 ● 煙が出る。  
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。  
● 重いものを上に載せない。  
● ステープルで止めない。 ● 加工をしない。  
● 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。  
芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。  
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

### 分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。  
火災や感電の原因になります。  
修理・調整は販売店にご依頼ください。

### 設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。  
● 浴室・台所・海岸・水辺  
● 加湿器を過度にきかせた部屋  
● 雨や雪、水がかかるところ  
水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：  
● 布やテーブルクロスをかけない。  
● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。  
● 仰向けや横倒しには設置しない。  
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。本機の周囲に左右20cm、上20cm、背面20cm以上のスペースを確保する。  
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。  
ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

## 使用上のご注意



禁止

本機の通風孔やサブウーファーのポート(右側面開口部)等にもものを入れたり、落としたりしない。  
火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。  
感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。  
水や異物が入ると、火災や感電の原因になります。  
サブウーファーの振動により、物が落下してけがの原因になります。  
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

## お手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。  
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

## ⚠ 注意

### 電源/電源コード



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

### 設置



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



禁止

ほこりや湿気が多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



禁止

スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。

スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。

### 移動



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。  
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



禁止

持ち運ぶときは、ポート(右側面開口部)や前面のネットに手をかけない。

ポートが外れたり、ネットが破れたり、本機を落としたりして、けがの原因になります。

## 使用上のご注意



必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。  
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。  
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。  
正常に動作しないときは、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



禁止

サブウーファーのポート(右側面開口部)には手を入れない。  
感電やけがの原因となることがあります。



禁止

サブウーファーのポート(右側面開口部)のそばには割れやすいものなどを置かない。  
ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。  
転倒・落下したり破損したりして、けがの原因となることがあります。



注意

接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、AVアンプ/レシーバーの電源を切り、説明に従って接続してください。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部: 限度値-高調波電流発生限度値(1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

## お手入れ



必ず実行

お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。  
感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁  
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。  
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



禁止

本体の表面に金属、陶器、その他固いものを当てない。  
表面にひびが入ったり、はがれたりする場合があります。

## ■お手入れのしかた

キャビネットを美しく保つため、柔らかい布などで軽く乾拭きをしてください。水気のあるものやアルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤などをかけたり、化学ぞうきんで拭いたり、ビニール系のシートなどを載せないようにしてください。色がはげたり貼り付いたりする場合があります。

## ご注意

この製品は背が高いため、転倒するとけがの原因となったり、床を傷つけることがあります。

- 設置の際は、地震などの振動やお子様の接触などで製品が転倒しないように設置してください。
- 必ず組み立ててからご使用ください。
- 組み立ての際は取り扱いに充分注意してください。



## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

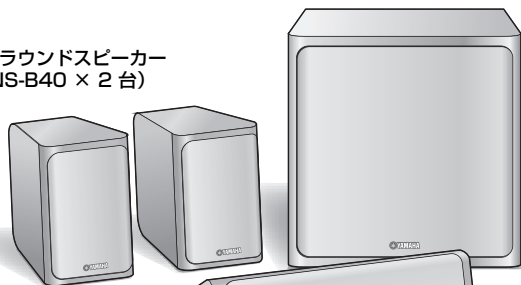
## 同梱品の確認

- 同梱品がすべてそろっているか、確認してください。
- ベースを梱包箱から取り出す際は、落とさないようご注意ください。

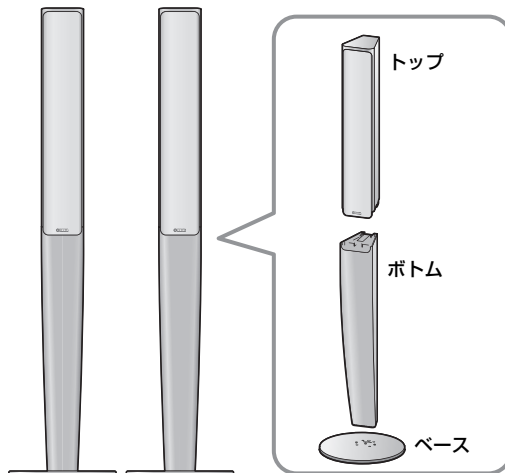
サブウーファー (NS-SW40 × 1 台)

フロントスピーカー (NS-F40 × 2 台)

サラウンドスピーカー  
(NS-B40 × 2 台)



センタースピーカー  
(NS-C40 × 1 台)

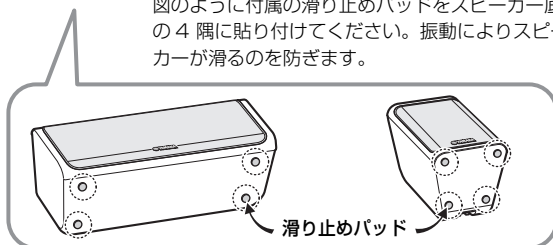


滑り止めパッド (24 個 × 1 セット)

センター、サラウンドスピーカー用

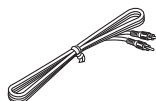
(予備 12 個を含む)

固い床や棚の上に直接スピーカーを置く場合は、左図のように付属の滑り止めパッドをスピーカー底面の 4 隅に貼り付けてください。振動によりスピーカーが滑るのを防ぎます。

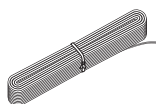


ネジ (10 個)

フロントスピーカー用



サブウーファー用ピンケーブル  
(5m × 1 本)



スピーカーケーブル (24.5m × 1 本)

フロント、センター、サラウンドスピーカー用に 5 本に切ってお使いください。切断時にけがをしないようご注意ください。

## フロントスピーカーの組み立て



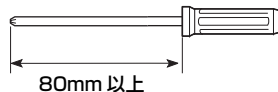
### 組み立て前に必ずお読みください

#### ご注意

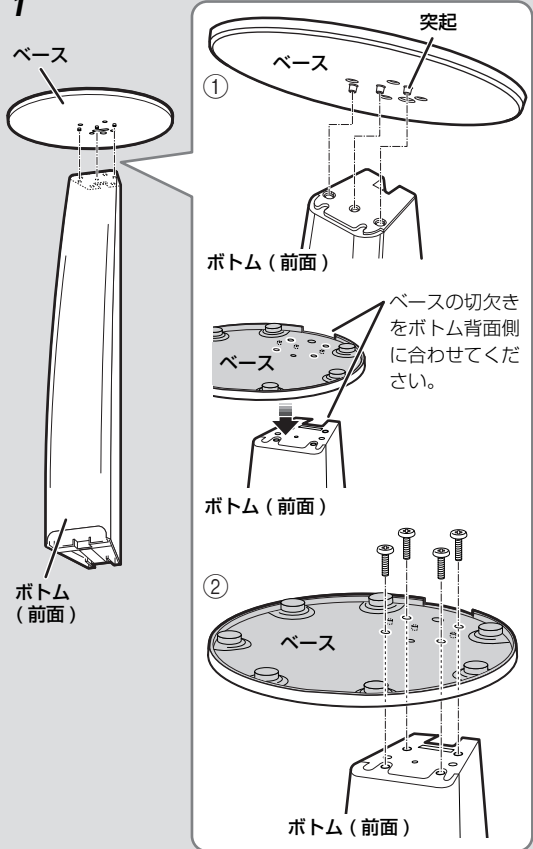
- 組み立ては、平らな場所を選び、じゅうたんなど柔らかいものの上で行なってください。
- 梱包箱からの取り出しや組み立ての際に、スピーカー前面のネット部分を強く握らないでください。ネット内部がつぶれるおそれがあります。
- 脱落防止のため、必ず付属のネジを使用してスピーカーを組み立ててください。
- 誤飲防止のため、ネジはお子様の手が届かないところに保管してください。
- スピーカーがぐらつかないよう、ネジはしっかりと締めてください。
- 可動部のすきまには手を入れないでください。手をはさんでけがをすることがあります。
- トップ部分だけの使用はできません。組み立てた状態でご使用ください。

#### ※ ヒント

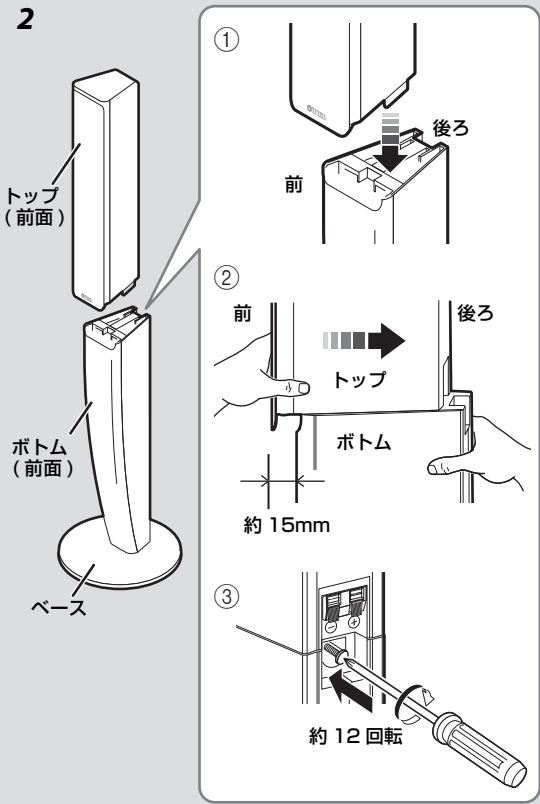
組み立ての際には、軸長 80mm 以上のプラスドライバーが必要です。



1



2

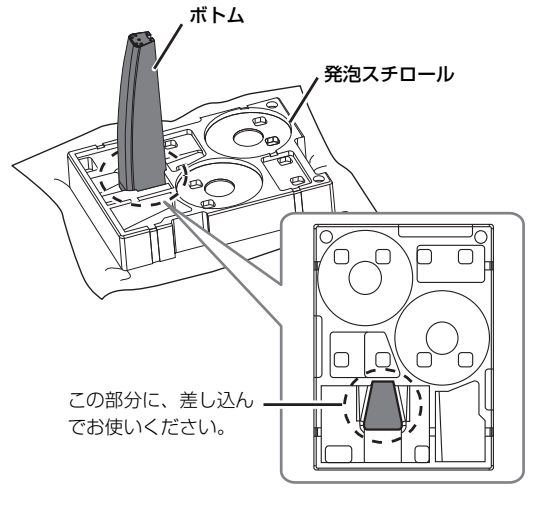


1 ボトムにベースを取り付ける。

- ① ボトム底面にある穴(3箇所)に、ベースの突起(3箇所)を合わせて差し込んでください。その際、ベースのケーブル通し用の切欠きと、ボトム背面の向きが合っていることを確認してください。
- ② ベース裏面(製品の底面)から、付属のネジ4個でボトムに固定します。ネジはまず交互に仮締めをして、その後しっかりと締めつけてください。

※ ヒント

ボトムにベースを取り付ける際、梱包箱から取り出した発泡スチロールを、組み立ての補助台としてお使いいただけます。



2 ボトムにトップを取り付けます。

- ① イラストのように、組み立てたベースとボトムを平らな場所に立ててください。トップをボトムより約 15 mm くらい手前にずらしてのせてください。
- ② ボトムが動かないよう押さえたまま、後ろ側の止まる位置までトップをスライドさせます。
- ③ 付属のネジ1個でボトムとトップを固定します。ネジは少しずつ締め、最後はしっかりと締めてください。(時計回りに約 12 回転で締まります。)



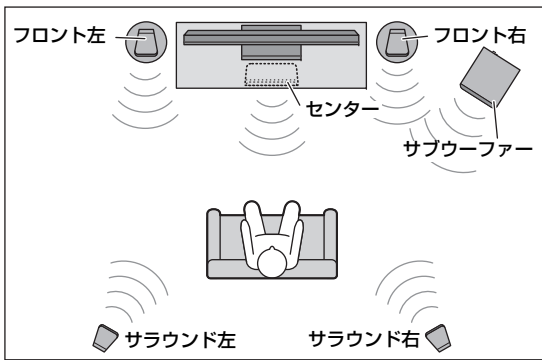
# スピーカーの設置

スピーカーを接続する前に、各スピーカーを部屋に設置します。スピーカーの位置はシステム全体の音響に影響します。視聴位置で最適な音響が得られるように、各スピーカーを設置してください。右図のように設置すると、もっとも効果的な音場を得られます。

サブウーファーの重低音域には指向性がほとんど無いため、サブウーファーの位置は他のスピーカーほど重要ではありません。詳しくは「サブウーファーの設置」をご覧ください。

## ご注意

- スピーカーのみでは音を出すことができません。AV アンプ（別売り）に接続してお使いください。
- スピーカーをブラウン管テレビの近くに設置すると画像の乱れや雑音が生じることがあります。そのような場合は、スピーカーとテレビを約20cm 離してください。液晶テレビやプラズマテレビには影響しません。



## フロント / センター / サラウンドスピーカーの設置

**フロントスピーカー (NS-F40) :** テレビの左右に、まっすぐ正面を向けて設置します。

**センタースピーカー (NS-C40) :** 左右フロントスピーカーの真ん中に、まっすぐ正面を向けて設置します。

**サラウンドスピーカー (NS-B40) :** 視聴位置の左右後方に、少し内側に向けて設置します。

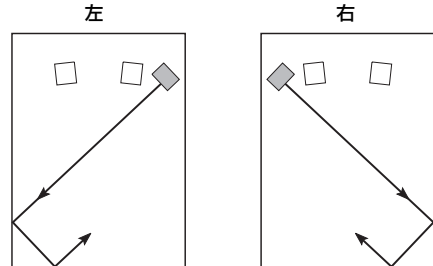
フロントスピーカーとサラウンドスピーカーは、お部屋の状況に合わせて床や棚に置いたり、壁に掛けてご使用いただけます。

壁に掛けて使用する場合は、「スピーカーを壁に掛ける場合」をご覧ください。

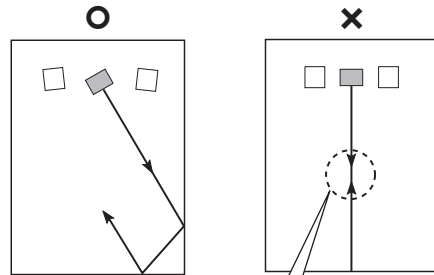
## サブウーファーの設置

■ : サブウーファー □ : フロントスピーカー

フロントスピーカーの左右どちらかの外側に設置する場合



サブウーファーを真ん中に設置する場合



## ご注意

定在波の影響で低音が聞こえにくいことがあります。

正面を向けて設置した場合、壁で反射した音とサブウーファーから出てきた音がぶつかり、打ち消し合ってしまうため、視聴位置（部屋の中心）で十分な低音効果が得られないことがあります。これは室内にできる定在波の影響です。これを避けるためには、サブウーファーを壁に対して少し斜めに向けると効果的です。

## スピーカーを壁に掛ける場合

スピーカーを壁に掛けて使用することができます。

- 1 次ページの図のように、十分に強度のある壁または補強材に、2本のタッピングネジ（市販品、直径3.5～4mm）を取り付けます。
- 2 タッピングネジの頭にスピーカー背面の穴を掛けます。

## ご注意

タッピングネジが、穴の狭い部分に確実に入っていることをご確認ください。

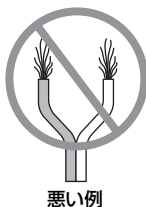
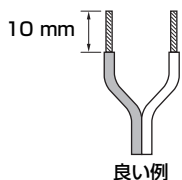




## ■ スピーカーケーブルの準備

スピーカーの設置が完了したら、付属のスピーカーケーブル（24.5m）をフロント左右、センター、サラウンド左右スピーカー接続用として用意します。

- 1 AV アンプ / レシーバー（以降は AV アンプと表記）から各スピーカーまでの配線を考慮のうえ、付属のスピーカーケーブルを 5 本に切断します。
- 2 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがします。
- 3 芯線をしっかりとよじます。

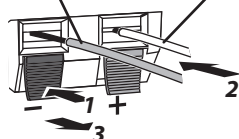


### ご注意

- スピーカーケーブルはできるだけ短くしてください。たるみが生じても束ねたり巻いたりしないでください。
- スピーカーケーブルに手足を引っ掛けることのないようにご注意ください。転倒してけがの原因になります。
- 芯線がバラけないように、しっかりとよじってください。
- スピーカーケーブルを準備する際、けがをしないようにご注意ください。

## ■ スピーカー端子との接続

マイナス (-)      プラス (+)



### ご注意

ショートしないように、芯線部分だけを端子の穴に差し込んでください。

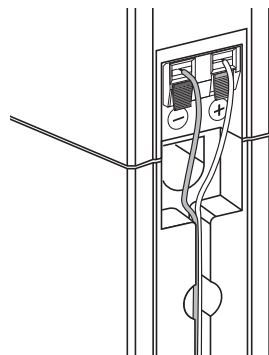
- 1 スピーカー端子のレバーを押し続けます。
- 2 穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込みます。
- 3 レバーから指を離し、芯線を固定します。
- 4 スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されていることを確認します。

### ご注意

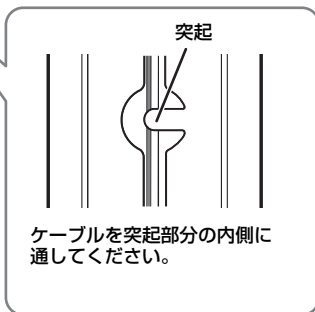
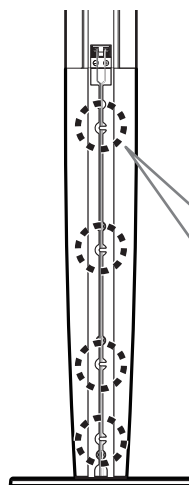
- 芯線どうしがショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、スピーカーや AV アンプをいためる原因になります。
- 正しく接続されていない場合、スピーカーから音が出ません。

## ■ フロントスピーカーについて

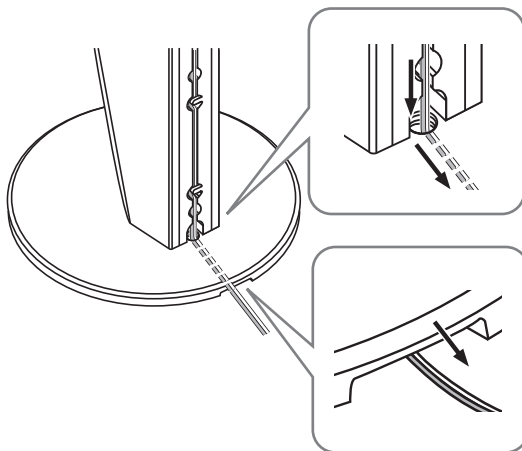
- 1 フロントスピーカーにスピーカーケーブルを接続したら、ボトム背面にある溝にスピーカーケーブルを収めてください。



フロントスピーカー（背面）



- 2 スピーカーケーブルを溝に収めたら、ベースにある穴にケーブルを通します。ベースの下からケーブルを軽く引っ張ってたるみを取り、ベースの切欠きの溝からケーブルを出してください。



**ご注意**

- スピーカーの位置を変えるときは、必ずベースとボトム部分を持って移動させてください。
- ケーブルがベースの切り欠きの溝からはずれてしまう場合は、市販のテープなどでベースの裏側に固定してお使いください。
- スピーカーには決してお子様等が寄りかからないようにしてください。転倒してけがの原因になります。

**■ AV アンプとの接続**

「接続図」(P.4 ページ)を参考に、スピーカーに接続したケーブルを AV アンプの該当スピーカー端子に接続します。

必ずスピーカーと AV アンプのプラス (+) 端子とし、マイナス (-) 端子どうしを接続してください。極性 (プラス / マイナス) を間違えて接続すると、音が不自然になったり、低音が出ないことがあります。

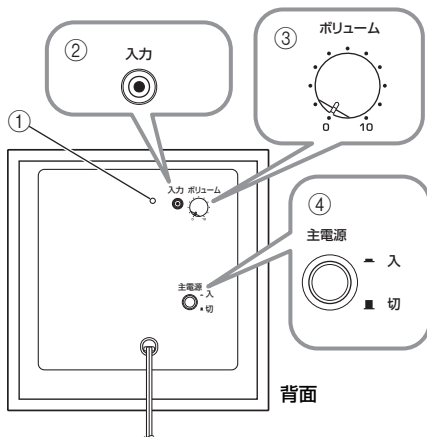
AV アンプでスピーカーサイズを指定する際は、すべてのスピーカーを「小」(または「S」)に設定してください。

ヤマハ製 AV 機器に接続する場合は、サブウーファーを SUBWOOFER 出力端子または LOW PASS 出力端子に接続してください。

**電源コードの接続**

スピーカーおよびサブウーファーの接続がすべて完了したら、サブウーファー、AV アンプ、各 AV 機器の電源コードをコンセントに接続します。

お使いになる前に、本体の保護フィルムを剥がしてください。

**サブウーファーの使いかた**

- ① **電源インジケータ**  
主電源を入れると点灯し、切ると消灯します。
- ② **入力端子**  
AV アンプのサブウーファー端子またはライン出力端子から信号を入力します。
- ③ **入力端子**  
サブウーファーの音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。
- ④ **主電源スイッチ**  
押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

**音量バランスの調節**

低音域を効果的に再生するには、サブウーファーとフロントスピーカーの音が自然につながるように音量バランスを調節する必要があります。

- 1 接続した AV 機器 (サブウーファーを除く) の電源を入れます。
- 2 ポリュームツマミでサブウーファーの音量を最小 (0) にします。
- 3 主電源スイッチで、サブウーファーの電源を入れます。  
電源インジケータが点灯します。
- 4 低音を含んでいるソースを再生し、AV アンプの音量を普段使用するレベルに調節します。
- 5 ポリュームツマミでサブウーファーの音量を徐々に上げていき、スピーカーとの音量バランスをとります。

**ご注意**

音量バランスを設定した後は、AV アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。ただし、フロントスピーカーをかえた場合は、もう一度音量バランスを調節してください。

## 困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。  
対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻頭の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

### ■ フロントスピーカー (NS-F40)、センタースピーカー (NS-C40)、サラウンドスピーカー (NS-B40)

症状	原因	対策
音が出ない。	音が小さい。	接続を確認してください。
音が小さい。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない (または不完全)。	左右や極性 (プラス / マイナス) が間違っていないか、接続を確認してください。

### ■ サブウーファー (NS-SW40)

症状	原因	対策
主電源スイッチを「入」にしても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	いったん主電源スイッチを「切」にしてから、電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
音が出ない。	サブウーファースピーカーの音量が最小 (0) になっている。	ボリュームツマミを右に回して音量を上げてください。
	サブウーファー用ピンケーブルが正しく接続されていない (または不完全)。	接続を確認してください。
低音が小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が多く含まれているソースを再生して確認してください。
	定在波の影響を受けている。	サブウーファースピーカーの設置場所や向きを変更してください。

## 仕様

### ■ フロントスピーカー (NS-F40) センタースピーカー (NS-C40) サラウンドスピーカー (NS-B40)

#### 型式

NS-F40	2ウェイバスレフ非防磁型
NS-C40	フルレンジ密閉非防磁型
NS-B40	フルレンジバスレフ非防磁型

#### スピーカーユニット

NS-F40	
ウーファー	7cm コーン型 × 2
ツイーター	2.5cm バランスドーム型
NS-C40	7cm コーン型
NS-B40	7cm コーン型

許容入力	30 W
最大入力	100 W
インピーダンス	6 Ω

#### 再生周波数帯域

NS-F40	67 Hz ~ 30 kHz (-10 dB) ~ 100 kHz (-30 dB)
NS-C40	70 Hz ~ 25 kHz (-10 dB) ~ 45 kHz (-30 dB)
NS-B40	50 Hz ~ 25 kHz (-10 dB) ~ 45 kHz (-30 dB)

#### 出力音圧レベル

NS-F40	85 dB/2.83 V, 1m
NS-C40	84 dB/2.83 V, 1m
NS-B40	83 dB/2.83 V, 1m

#### 外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)

NS-F40	230 × 1000 × 230mm (ベース含む)
NS-C40	276 × 111 × 118mm
NS-B40	112 × 176 × 116mm

#### 質量

NS-F40	2.8kg
NS-C40	0.73kg
NS-B40	0.59kg

### ■ サブウーファー (NS-SW40)

型式 ..... アドバンスド・ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー II 方式

スピーカーユニット ..... 16cm コーン非防磁型

アンプ出力 ..... 50 W (100 Hz, 5 Ω, 10% T.H.D)

アンプダイナミックパワー ..... 100 W, 5 Ω

入力インピーダンス ..... 入力 (1P RCA pin jack): 12 kΩ

再生周波数帯域 ..... 30 Hz ~ 200 Hz

入力感度 ..... 入力 (1P RCA pin jack):  
50 mV (50 Hz, 50 W/5 Ω)

電源 / 電圧 ..... AC 100 V, 50/60 Hz

外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き) ..... 290 × 292 × 327 mm

質量 ..... 8.0kg

\* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。



ヤマハ株式会社

© 2013 Yamaha Corporation

Printed in Indonesia ZH84230